

産業経済委員会

【議案】令和4年度松浦市松浦魚市場特別会計補正予算（第1号）

松浦魚市場PR事業として1千万円が計上されました。新型コロナウイルス感染症の影響による地域経済の活動回復に向け、「アジフライの聖地松浦」の取り組み拠点の一つである再整備された魚市場のPR動画やパネルなどの作成、説明ブースなどの魚市場内への設置などを県内大学の学生などと連携して行い、さらなる情報発信体制の強化を行うことにより、本市への誘客を図るための予算計上であり、妥当と認めました。

【議案】令和4年度松浦市一般会計補正予算（第3号）（関係分）

○宿泊キャンペーン支援事業として3164万9千円が計上されました。ウィズコロナ・アフターコロナ下における本市への誘客を強化するため、「アジフライの聖地松浦」3周年記念事業として、宿泊割引、アジフライ連携店で使えるクーポン券の発行、アジフライの聖地巡礼スタンプラリーなどのキャンペーンを実施。併せて今年で10周年を迎える一般社団法人まつうら観光物産協会が記念事業として実施する本事業のPR事業を補助するための予算計上であり、妥

当と認めました。

○地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業として、1245万円が計上されました。ウィズコロナ・アフターコロナ下における本市の観光業の本格的な復興の実現に向けて、地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出を図る。国内で有数の水揚げ量を誇る松浦市のあじを活用した、一次産業と連携した体験コンテンツの造成や福岡都市圏のファミリー層およびミレニアル世代の女性をターゲットとした観光プロモーションの実施などによる誘客の強化を図るための予算計上であり、妥当と認めました。

行政調査

【総務委員会】

令和3年度ふるさと納税の寄付額がトップ1位、2位（3位は松浦市）である佐世保市、波佐見町を行政視察の対象とさせていただき、今後の松浦市のふるさと納税において、さらなる寄付額の向上を目指し行政調査を実施しました。

I 佐世保市のふるさと納税について

佐世保市のふるさと納税に対する取り組み姿勢としては、ふるさと納税において寄付額を伸ばすというこ

とよりも「佐世保市を知ってもらいたい」というスタンスでの取り組みであるということが感じられた。地域経済の活性化、地場企業の振興を目的としたふるさと納税への取り組みである。

佐世保市において特徴的な点の一つは、ふるさと納税の特設サイトを運営されていることである。ふるさと納税については、民間のポータルサイトが多数あり熾烈を極める状況にある。その中であって独自サイトを運営し成果を上げていくには、それ相応のメリット・デメリットが考えられる。佐世保市においては、特設サイトでの寄付件数は2523件、寄付額2億1614万2千円、全体に占める割合は、10・5%である。民間委託における手数料を勘案するとこれだけの実績を上げられるのであれば、特設サイトの運営は評価に値すると思われる。

佐世保市の特徴としての2点目は、本格的な返礼品のカタログを製作されている点である。現在、カタログからの寄付件数は、2438件、寄付額1億7827万2千円、全体に占める割合8・7%である。アナログ世代もいるためカタログのニーズも求められるところではあるが、今後カタログを継続していくのかどうかは、課題とされている。

佐世保市の取り組みの中で松浦市においても参考にしていかなければ

ならない点は、組織体制である。

佐世保市、業務委託先であるパーソナルデザイン(株)、そして佐世保物産振興協会の三者が、佐世保港国際ターミナル内にそれぞれ事務所を配置し、常時連絡調整が取りやすい体制を整えている。迅速な対応ができることは、非常に重要なポイントである。

II 波佐見町のふるさと納税について

波佐見町におけるふるさと納税は、町の担当者1人で行い、かつ業務の1割程度がふるさと納税に関わるのみという完全外注化が進められている。業者は、(株)スチームシップ。完全外注とすることにより業者に対して気兼ねすることなくフラットな形で提案することができると、より良い返礼品が生まれやすい。商品開発力と発刊誌「ふるさとBOOK Like」が、返礼品カタログと町の情報を伝えるタウン誌としての機能を併せ持ち、よく作り込んでいる。また、町内の店舗にそれぞれついている固定客への発信、楽天などのポータルサイトにおいて各店舗の商品と共にふるさと納税商品が一緒に表示されるなどの相乗効果が図られている。これも地場企業とふるさと納税（行政・業者）が一体となった取り組みである。

以上のように2市町を行政視察して大変参考になるものであったと感